

統合報告書

Integrated Report 2025



時代の変化に合わせ、変革の速度を上げる。

StageII 最終年度(2026年度)

- 営業利益:190億円以上
- ROE:10%以上
- (想定売上高:1,600億円以上)
- 連結配当性向:40%

Vision 2030達成に向けて、中期経営計画StageIIの2年目となる2025年度も「独創のための研究・技術開発力の強化と効率化」「グローバル化の加速」「ROIC経営の推進」「安定した株主還元の継続」を軸にさまざまな施策に取り組んでいます。私たちは「人」を中心に成長を続け、変革の速度を上げます。

Vision 2030

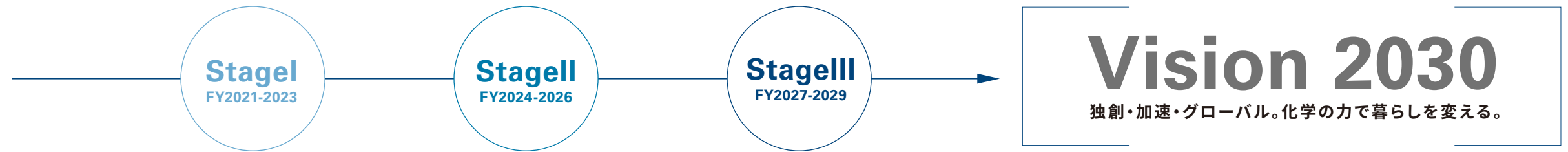
- 営業利益:240億円以上
(想定売上高:1,800億円以上)
- ROE:10%以上の安定確保

加
速

Acceleration

パーパス

化学技術でより良い生活環境の実現に貢献し続ける



企業理念

基本理念

「社会」、「生命」、「環境」に
貢献する。

株主・顧客・取引先、地域社会、
従業員を大切にする。

遵法精神を重んじ、
透明な経営を行う。

行動基準

- 社会から信頼される事業活動を行うため、社会規範、法令、会社の諸規定を遵守し、高い倫理観と良識をもって行動する。
- ものづくりに際しては、地球環境との調和を図り、常に安全確保に万全を期し、無事故・無災害に努める。
- 相互協力、相互理解により人権を尊重し、風通しのよい働きやすい職場をつくる。
- 企業活動の透明性を保つため、企業市民としてコミュニケーションを重視し、企業情報を適時、的確に開示する。

2050年 ありたい姿

健康で心豊かな暮らしを実現し、人と社会から愛されるグローバルな会社

ありたい姿を実現するための3つの取り組み

挑戦・革新

社会を創造

組織・人の進化

Vision 2030

独創・加速・グローバル。化学の力で暮らしを変える。

Vision 2030 経営目標



サステナブルな社会に貢献する事業活動により、企業価値を向上する。

メガトレンド

- 気候変動問題の深刻化と脱炭素社会への移行
- 世界の長寿化・高齢化
- 世界人口の増加と食料問題
- 新興国の経済成長
- 世界情勢の不安定化
- デジタル技術の発展
- 生活水準の向上

ステークホルダー ● 株主・投資家 ● 地域社会 ● 顧客・取引先 ● 従業員

提供すべき価値と取り組み

有機化学事業

顧客の価値向上に直結する独自製品を世界中に供給し、人々の食、健康、生命を支えてサステナブルな社会の実現に貢献する。

- バリューチェーンを意識した開発・商業化の推進
- 自社技術の錬磨・進化による価値創造加速と成長路線復活
- 主力製品の世界一低コスト製造と顧客への安定供給

農薬 …………… 農作物の生産の安定と品質の向上
動物用医薬品 …… 愛玩動物との快適生活の実現
医薬 …………… 医療への貢献

無機化学事業

酸化チタンで培った技術をベースとした新たな価値を創造し、環境ならびに情報化社会を支えてサステナブルな社会の実現に貢献する。

- ICT普及や自動車EV化などの社会課題解決に機能性材料で貢献
- 酸化チタンの光学的特性を多様化させて、新たな価値創造を実現
- 生産構造改革により環境負荷低減と生産効率化とを両立

機能性材料 …………… さまざまな快適を作る
酸化チタン …………… さまざまな色彩の提供
環境商品 …………… 革新と環境保全の両立

新規事業、その他

- 新たな事業ポートフォリオを有する会社へ
- ESGを意識して資源(ヒト・カネ)を投入し、環境にやさしい製品開発の強化
- 2050年カーボンニュートラルへ向けた推進体制の確立

Business in Brief

有機化学事業

世界の食を支える、動物の命を救う

有機化学事業は、除草剤、殺菌剤、殺虫剤などの農薬を主力製品としており、米州、欧州、アジアなどに広がる幅広いネットワークを構築しています。輸出額は国内トップクラスを誇ります。さらに、農薬技術の応用から生まれた動物用医薬品を新たな成長分野に定め、世界主要国での販売開始を目指しているところです。

● 農薬

約70年前、日本で最初に化学農薬技術を導入して以来、化学農薬のパイオニアとして、世界トップクラスの開発力で人と環境に優しい農薬製品をグローバルに提供しています。生産技術のさらなる向上を目指す新研究施設「ひょうご小野研究センター」（兵庫県小野市）を2025年12月に開設します。

● 動物用医薬品

世界初の犬用抗膵炎剤「パノクエル®」が主力。既に国内で製造販売を進めているほか、近くアメリカでも完全承認を取得し本格販売に移る見通しです。主原料の「フザプラジブナトリウム水和物」のユニークな作用機序を活用した、他の炎症性疾患などへの用途拡大にも取り組んでいます。

無機化学事業

快適でサステナブルな社会の実現に貢献する製品を提供

無機化学事業の主力製品は、電子部品材料や遮熱材料などの機能性材料製品です。また、環境負荷のより低い塩素法※による酸化チタン製造を国内で唯一手掛け、白色顔料として、塗料、プラスチック、インキなどの工業製品や化粧品、化学繊維など幅広い分野に提供しています。

※高度な技術を要し産業廃棄物の排出量が少ない製造方法

機能性材料、酸化チタン、その他化成品

● 電子材料

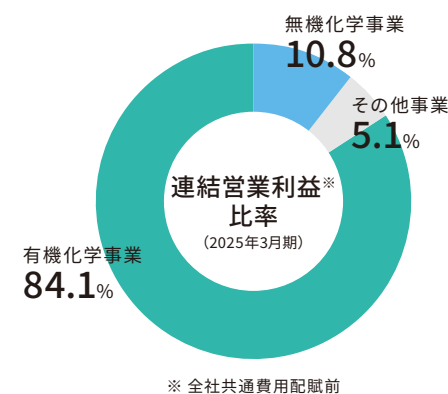
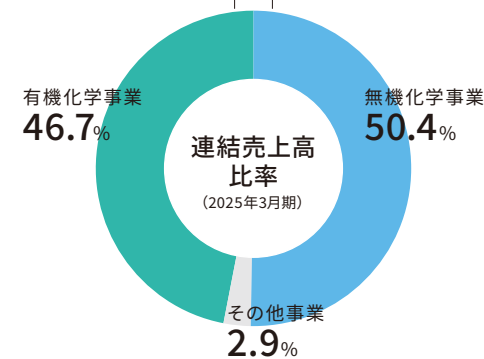
積層セラミックコンデンサの原料である高純度酸化チタンをはじめ、デジタル技術の発展に必要な新規開発材を展開しています。

● 機能性色材

当社の独自材料設計技術を活用した機能性材料（高漆黒顔料・導電性材料・板状チタン酸・化粧品用顔料・超微粒子酸化チタンなど）を展開し、快適な生活環境を提供します。

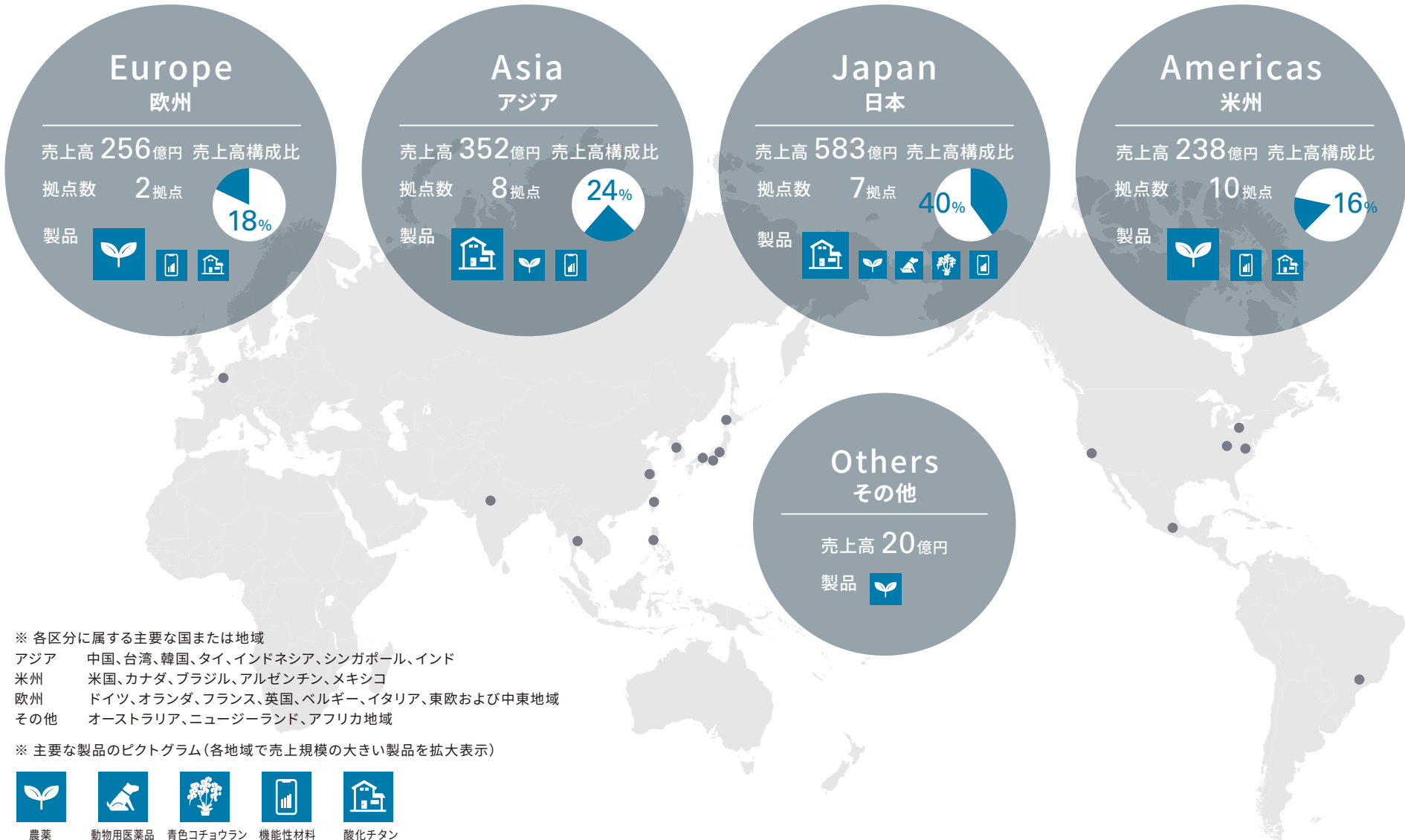
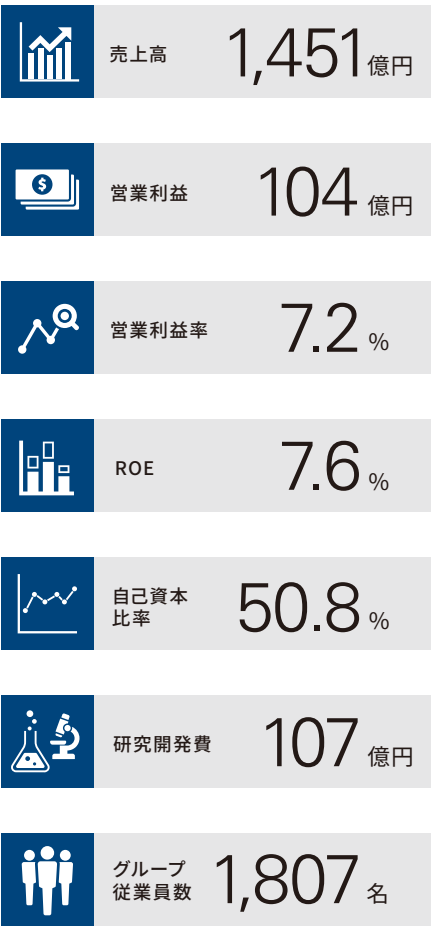
● ファインケミカル（酸化チタン）

顔料用酸化チタン、および高耐候性酸化チタン、化成品、「ハスクレイ®」といったファインケミカル製品を取り扱っています。



Business in Brief

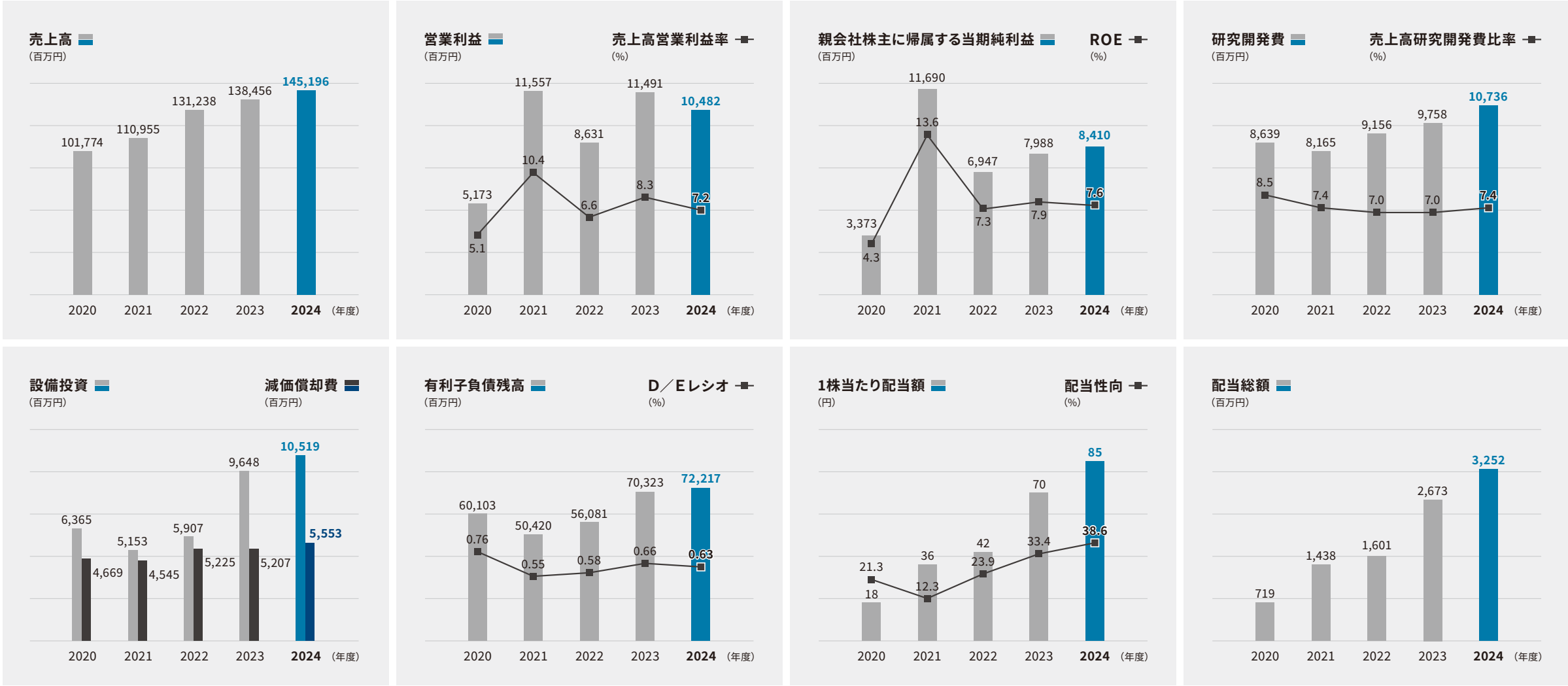
Key Figures (2025年3月期)



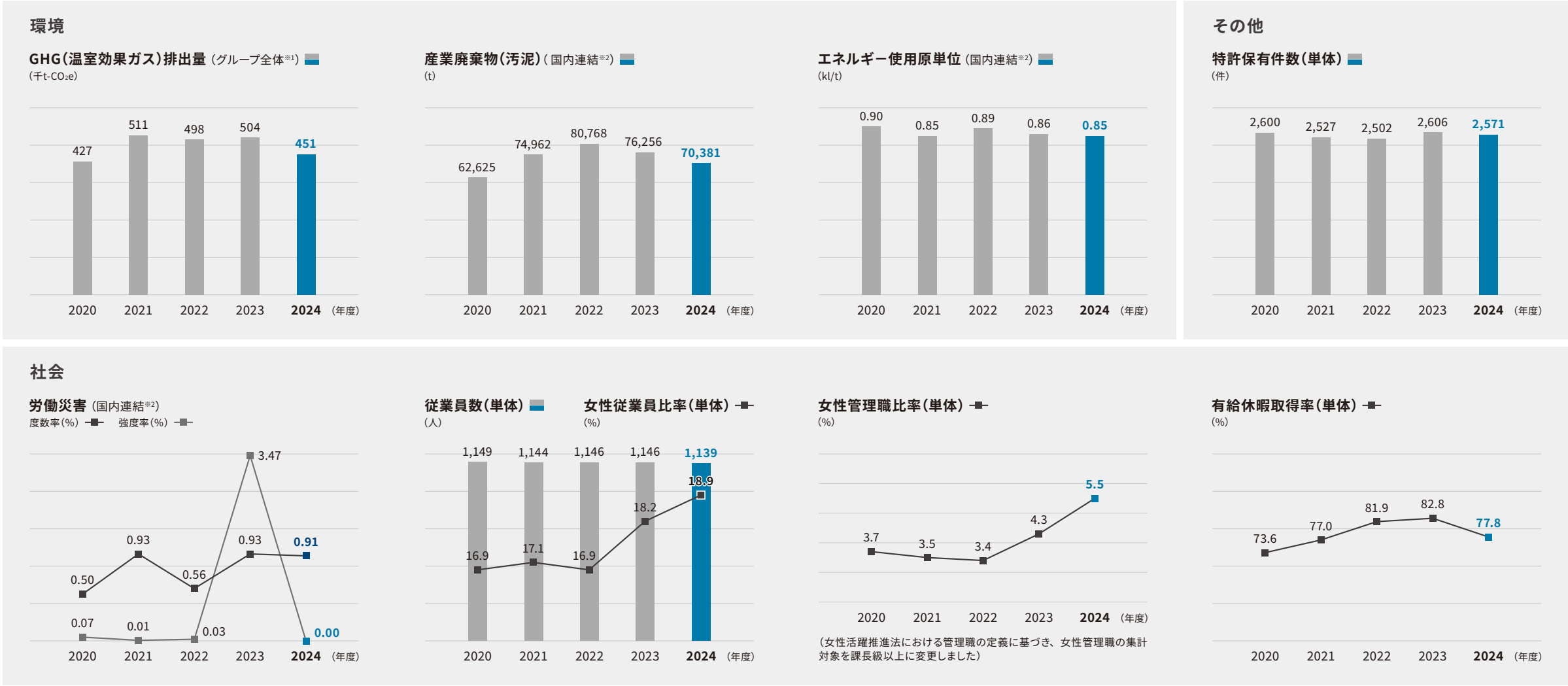
財務・非財務ハイライト

石原産業の現在とこれから ■ 持続可能な成長戦略 ■ 成長を支える経営基盤 ■ コーポレートデータ

財務ハイライト(連結)



非財務ハイライト



パーパス・目次

パーパス

化学技術でより良い生活環境の実現に 貢献し続ける

このパーパスは、当社グループが長い歴史の中で培ってきた

チャレンジ精神を受け継いだ私たちの存在意義です。

私たちは、暮らしになくてはならないものを社会に提供しています。

農業は、今後も増加する地球の人口の食を支えることに大きく貢献するものです。

酸化チタンは、鮮やかな色彩のある心豊かな生活に欠かせません。

また、PC、スマホ、自動運転、そして電気自動車などに

今後ますます広く用いられるコンデンサ、

ここに使用されるチタン酸バリウムもなくてはならないものです。

私たちの強みは、独自の化学技術力、技術開発力です。

キラリと光るオンリーワンの技術を持っています。それらを活かし、

社会の皆さんが求める価値や製品をお届けすること、

無ければ新たに生み出すこと、これが私たちの生きる道です。

化学技術で世の中の課題を解決し、より良い生活環境を実現していく。

私たちの存在意義はここにあります。事業活動を行う上で私たちは、

このパーパスを全ての基本としています。

石原産業の現在とこれから ■ 持続可能な成長戦略 ■ 成長を支える経営基盤 ■ コーポレートデータ

目次

石原産業の現在とこれから	01 イントロダクション	成長を支える経営基盤	36 DX推進
	02 パーパス		37 社外取締役メッセージ
	03 Vision 2030		39 人的資本
	04 Business i n Brief		44 環境
	06 財務・非財務ハイライト		50 レスポンシブル・ケア活動
	08 パーパス・目次		51 社会
持続可能な成長戦略	09 トップメッセージ		53 ステークホルダー・エンゲージメント
	13 Vision 2030 StageⅡ 全体像		55 コーポレート・ガバナンス
	14 Vision 2030 StageⅡ 進捗		60 リスクマネジメント
	15 財務本部長メッセージ		62 コンプライアンス
	17 価値創造プロセス		63 役員一覧
	18 インプット/アウトプット	コーポレートデータ	65 財務・非財務サマリー
	20 サステナビリティ推進室長メッセージ		67 石原産業のあゆみ
	21 マテリアリティ		68 会社概要・グループ拠点
	23 有機化学事業（バイオサイエンス）		69 株式情報
	26 有機化学事業（ヘルスケア）		70 編集方針
	28 無機化学事業		
	31 研究開発活動		
	33 研究開発活動 特集		
	35 知的財産管理		

（p09） トップメッセージ

10年先を見据えて手を打つのが、 今の経営陣の責任

代表取締役社長 大久保 浩



（p33）

特集 目まぐるしく変わる化粧品原料ニーズに、 少人数チームで挑む

事業部制の導入により、無機化学事業本部のビジネススタイルが変わりつつあります。フットワークはより軽く、スピードはより速くなり、新たなニーズに俊敏に対応できる体制が整ってきました。新設された機能性色材事業部で、新たな化粧品原料の事業化に取り組む「化粧品チーム」の3名に話を聞きました（役職は2025年6月当時）。

